

小水文研究集会

「ダム計画や治水・利水計画について、水文分野は今後どのように貢献するのか、できるのか。」

日時：2010年3月5日(金) 17:00～19:30

題提供者：

吉谷純一(国土技術政策総合研究所)

中津川誠(室蘭工業大学大学院工学研究科)

立川康人(京都大学大学院工学研究科)

飛び入り歓迎

開催趣旨

ダム計画や治水の議論では、水工学を専門としない方々には、これまでの水工学の蓄積が十分に理解されていない、あるいは信頼されていないと感ずることがあります。

成果が適切に発信されていない、ということもあるかもしれませんが、それと同時に、まだまだ科学技術として不十分な点が多々あって、それらを発展させ、発信していかねばならないと考えます。

水文分野として、そうした研究課題が何であるかを議論し、確認することが、本日の研究集会の趣旨です。

研究課題

- 降雨予測:
- 流出予測:
- 水文統計:
- 水資源管理:
- モデルを検証できるデータ整理:
- ソフトウェア開発:
- 見せるツール:

専門化が進み過ぎていないか。つまみ食いも大切？若手のレビューが多少甘くても大目に見る？

社会技術としての水理・水文解析ソフトウェア

- モデルを作った以外の人々が、簡単に利用できる環境が大事である。多くの人に使われるモデルは、信用される。
- モデルを作った以外の人に、シミュレーション結果が理解される環境が必要である。
- CommonMP は、土台となるソフトウェアと、その上で動作する要素となるモデルからなる。
- CommonMP は、準備された要素モデルでことが足りるならば、自身でモデルを開発する必要はない。使うだけでよい。
- 不十分であれば、自分で要素モデルを開発して、自身の CommonMP に組み込むことができる。他の人々に公開することも容易である。公開する場合、ソースを公開するのもよいし、実行形式だけ、公開することもできるようになっている。

キーワード

- 重要な事実が文献に記述されていること。
- ツール開発偏重であった。ツールの評価が不十分である。
- 俯瞰、わからないこと、できないことを明確に記述する。レビュー論文が重要である。
- 大型プロジェクトでは生まれない次の技術。
- NGOによる多様な代替案(誰が計算する?)。
- ダム管理。ただし書き操作は大きな傷を残す。
- 予測が重要だ。何時間先までに何がわかると何ができるか、によっていろいろやり方はある。
- やはり、精緻に計算する必要がある。